

当時3千円のギター（エレキギターは高額のため購入できず）を買い込み、さっそく改造してインチキエレキギターを作りました。ギターアンプはこれも高額で購入できないため、家にあった真空管ラジオを分解してスピーカーを取り出し、中学の担任の理科の先生にお願いしてギターアンプらしきものを作りました。気分は立派なギタリスト。でもほとんどギターの知識すらない私は、見よう見まねで朝から晩までギターと悪戦苦闘でも毎日楽しかったなあ。

1965年6月、フジテレビで「勝ち抜きエレキ合戦」という番組がはじまりました。この番組は、アマチュアのエレキバンドが毎回数組出場して技を競い、勝ち抜いていくというもの。提供は佐藤製菓、司会は鈴木やすしでした。この番組はその後テレビの定番となる公開番組という形式。エレキ好きの少年にとって毎回楽しみな番組で、公開収録を見に行くことが憧れでした。中学3年の私ももちろん、家の近所の品川公会堂に何時間も並んで入場券を手に入れ、見に行きましたよ。当時はエレキが不良という悪しき常識がはびこっており、中学の教師・PTAのお母さん方の妨害に遭いながらも、無事観覧したことを今でも鮮明に記憶しています。

中3の私は高校受験もほったらかして洋楽ポップスにエレキに夢中でした。両親も気がではなかつたでしょうね。そんな親の心子知らずの典型のような中3時代もなんとか乗り切り、すれすれの成績で都立の全寮制高校に滑り込みました。

私が人前で音楽らしきものを披露したのはこの中3の卒業式の余興でした。確かクラスメイトと初のパンドを組んでザ・ベンチャーズの「急がば回れ」をやったことは覚えていますが、ほかは一切記憶にありません。ザ・ビートルズの曲も演じたかったのですが、練習の時点であまりの難しさにギブアップでした。

私の音楽放浪記は中学1年のときに運命的に出会ったザ・ビートルズ、ザ・ベンチャーズからはじまりました。さてこれから多感な高校生になって、またさまざまな音楽やミュージシャンたちと出会い、音楽の世界を放浪していきます。楽しいことあり悲しいことあり、ほろ苦い思い出もその時々。音楽とともに心に刻まれています。まずは私の音楽放浪記イントロダクション、お付き合いいただきました。続きはまたいつか。

最後までお付き合いいただきありがとうございます。



ザ・ベンチャーズの「急がば回れ」のレコードジャケット



「あ・そうかい文化祭」
↑2017年 ←2018年
ギター演奏と歌で参加。
2019年にはギター漫談も披露



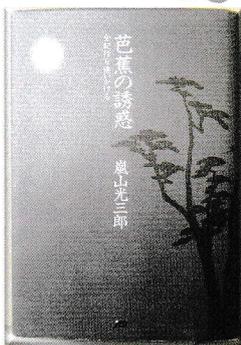
BOOK

芭蕉の誘惑

文学にまつわるエッセイや旅行記で知られる著者が、俳聖・松尾芭蕉の足跡を丹念に掘り起こした力作。「全紀行を追いかける」とサブタイトルにあるように、「奥の細道」「笈の小文」「更科紀行」などの道のりを自らたどり、芭蕉の心のうちをその句とともに探っていく。

自在な文体と発想が持ち味の著者だけに、名句の解釈もまた独特。たとえば「田一枚植て立去る柳かな」は、なんと「柳の精霊」を詠んだ句だと喝破してみせる。俳聖の実像に果敢に斬り込む筆致は、俳句愛好者でなくとも十分に楽しめるだろう。著者には「悪党芭蕉」の作もある。

(佐藤次郎)



芭蕉の誘惑
全紀行を追いかける
嵐山光三郎著 (JTB)

わたしの1冊

DVD

夜霧よ今夜も有難う

永遠のラブ・ストーリーで世界的に大ヒットした「カサブランカ」の日本版として製作されたのがこの作品。裕次郎とルリ子がハンフリー・ボガートとイングリッド・バーグマンに果敢に挑戦している。裕次郎の心意気に乾杯！ 黒人ピアニストが歌う主題歌「As time goes by」に対抗すべく裕次郎自身がピアノを弾きながら「夜霧よ今夜も有難う」を唄う。原作にはない派手なアクションシーンもあり、まさに裕次郎のための映画。他方、なぜか原作の有名なシーンがカットされている。両作品を見ることで時代背景・文化の違いがわかり映画の楽しさが倍増すること間違いなし。(飯塚敏洋)

わたしの1本



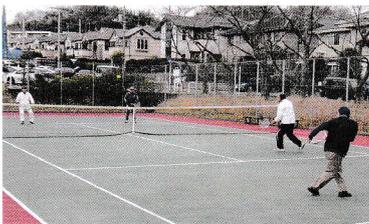
公開：1967年3月11日
監督：江崎実生
製作：日活
映画脚本：江崎実生、石森史郎、野上龍雄

@テニス分科会



とんび池公園と多摩スポーツセンターのコートで楽しく汗を流している。故障などで参加人数は変動するが、現在は10人ほど。「あ・そうかい」会員ではないメンバーもいる幅広い集まりだ。

プレーするのは月に2〜3回。抽選に申し込む方式なので、思うようにコートを確認できないのが悩みだ。せっかくなので、人数が集まらずにキャンセルすることも。経験者、未経験者問わず、メンバー大募集中！



代表：田島 潤 (F班)

@異文化

日本と外国の文化の違いに以前から興味がありました。

文化の違いを知ることで外国の人をより理解し距離が縮まり、また自分たち日本人のことも、世界のなかの日本のことを理解するのにも役立つのではないかと思ひ、@異文化を立ち上げました。

日本在住の外国人にも声を掛けようと思っています

いまのところ毎月第一月曜の午前10時から2時間ほど「やまゆり」のサロンで集まり、異文化に関する英語のブログを読んだりしています。



代表 西田直子 (F班)

日本舞踊の会



結成から4年弱、現在会員は6名。七々扇流ひで輝女師匠のご指導のもと、月2回の稽古を続けている。

これまでに仕上げたのは「夕暮」「梅にも春」「深川」の3曲。「あ・そうかい文化祭」には毎回参加している。現在、「初春」に取り組み中。昭和の演歌などで踊る「新舞踊」が時流のなか、「こちら」は江戸情緒あふれる古典一筋。楽しい稽古に励んでいる。



代表 飯田保幸 (B班)

季節のうた

梅は咲いたか

江戸端唄

梅は咲いたか 桜はまだかいな
柳かなよなよ風次第

山吹や浮気で 色ばかり
しよんがいな

浅蜷とれたか 蛤やまだかいな
鮑くよくよ片想い

さざえは怪気で角ばかり
しよんがいな

柳橋から小舟を急がせ
舟はゆらゆら波しだい
舟から上がって土手八丁
吉原へご案内

編集後記

人は誰も語るべき物語を持っている。多くの経験を積んできたシニアであれば、なおさらのことだ。自分では平凡な人生を送ってきたと思っ
ていても、そこにはさまざまな輝き
がひそやかに光っているのである。
「あ・そうかい通信」がリニューアルして3号目。見開き紙面には毎
号、会員の筆になる素晴らしい寄稿
が載っている。それぞれが秘めてい
るそんな「輝き」を、できる限りす
くい上げていきたい。それが編集部
一同の思いだ。